

かわさき区の宝物シート

宝物No.	はたけぼしよとよりまさつか
8-6	畑家墓所と頼政塚

エリア	中央地区	シーズン	通年
	渡田・京町	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input checked="" type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区小田1-20-25
問い合わせ	川崎区役所地域振興課
TEL	044-201-3136
FAX	044-201-3209
E-mail	61tisin@city.kawasaki.jp
URL	
交通	川崎駅よりバス「京町」下車徒歩7分



基礎情報

■畑六郎左衛門時能は鎌倉幕府を討ち滅ぼすために挙兵した新田義貞の4人の重臣として、後に『新田四天王』と称されたうちの1人である。大太刀をふるう大男と「太平記」で描かれ、南北朝期に足利方との争いで義貞が討死した後も、越前国の地にとどまって戦い、最期を迎えた。この畑六郎左衛門の末裔とされる畑家一族の墓所が小田1丁目の住宅街の一角にある。

■江戸時代、このあたりは畑ヶ新田とよばれ、小田村に移り住み後に天領の名主となる、畑重兵衛や畑喜右衛門の頃に開発が進められた土地であったと伝えられている。墓所境内には、畑家一族の墓所のほか、平安末期に平家追討に立ち上がった源頼政を奉じたとされる『頼政塚』、頼政の供養塔、重兵衛・喜右衛門の供養塔が置かれている。また、六郎左衛門が越前・伊知地山（現・勝山市）で足利方の城を攻略する様子を描いた、海北友雪画『太平記絵巻・灯明寺囃の戦い絵巻』の荘厳な石刻画（レリーフ）も平成12年(2000)に建立された。

由来・エピソード

■現在の川崎区小田・渡田地域には、新田四天王にまつわる伝承や塚が多く見られる。篠塚伊賀守の石塚や栗生左衛門の栗生塚、亘新左衛門の亘塚、そして畑六郎左衛門の子孫が祀ったという頼政塚である。享保16年(1731)の「小田村名寄帳」にも頼政塚の地名が記されている。ほかにも義貞が寄付したという馬場、義貞の守り本尊と伝えられる成就院の不動明王像、渡田では義貞のことを飛び將軍と呼んでいたという伝承などが残る。

■源頼政は、当初源氏でありながら平治の乱で源義朝につかず、宮中に出仕し和歌の名手として名を上げていた。鶴（ぬえ）退治の功績によって丹波の国矢田（京都府亀岡市）に領地を賜ったともいう。治承4年(1180)、以仁王を奉じて平家追討の兵を挙げたが破れ、宇治平等院で自刃した。頼政の首を家臣が矢田の地へ持ち帰り供養したのが「頼政塚」の始まりといわれ、特に江戸初期に関東地方で頼政信仰が広まり、高崎(群馬)や古河・竜ヶ崎(茨城)、川崎など各地に頼政塚や頼政神社が建てられるようになった。畑家では布袋に入れられた頼政の首が馬によって運ばれてきたと伝えられている。

■畑六郎左衛門時能の子孫にあたる畑和夫さんが旧制中学に通っていた頃、空襲によって屋敷などほとんどが焼失してしまった。自宅そばに残る八幡社の礎は片側が失われたというが今では立派に復活している。畑さんが幼い頃の墓所は薄暗く、怖がりながらもよく遊んでいたという。昭和60年頃、父親と一緒に墓所内の参道など本格的に改修整備を行い、また太平記絵巻の石刻画は、畑さんが太平記絵巻写真集（埼玉新聞社発行 平成9年(1997)4月21日第一刷）に収められた『太平記絵巻 第七巻（第14紙 巻二十二）』を参考に、平成12年(2000)に制作したもの。畑六郎左衛門時能が二人の従者と犬を連れて夜討ちをかけた足利方の城を落とす場面、伊地山にて足利高経の大軍をわずか16騎で打ち破った場面が描かれている。

補足・その他

■畑家墓地は、川崎区内に存在する2箇所の内墓（個人管理の墓）のうちの一つである。もう一つは池上家の墓所である池言坊。

関連シート

(8-2)新田神社
 (10-2)池言坊
 (23-1)田中の寮(田辺家墓所)